

まちづくり計画とは

1 目的と概要

市と住民で共有できる地区ごとのまちづくりの将来像が、これからのまちづくりに必要になってきています。

「まちづくり計画」は、住民主体の計画づくりによって自分たちの生活圏である身近な地域の課題を解決し、市と住民が地区の必要性に応じたきめ細かなまちづくりを推進することを目的としています。以下で「まちづくり計画」の計画づくりの考え方や方法の例を説明します。あくまでも、参考として示したものですので、このとおりに行わなければならない、というものではありません。地域にふさわしい計画づくりをしていただき、地域の特徴や魅力を生かした計画を作っていただきたいと考えています。

また、つくられた地区別計画は、今後、市総合計画をはじめとする各施策に反映されていく予定です。

2 誰が計画をつくるのか

「まちづくり計画」は、地区のまちづくり活動を集約（地区でできる活動）し、地区のまちづくりの将来像をつくることになりますので、まちづくり活動を進めている地区の方々や団体のこれまでの経験や知識を生かして計画づくりを進めていくことが必要と考えられます。

このため、計画づくりは、まちづくり活動を総括しているコミュニティ運営協議会が中心となり、さまざまな分野に詳しい人たちと協力し合って計画づくりを分担していくことが適当と考えられます。

3 どうやって計画をつくるのか（初年度）

（1）計画づくりの手順

- ① 計画の進行役（ワークショップ時）の決定・・・ワークショップの進行役
・委託業者 ・住民で行う
 - ② ワークショップのまとめ役の決定・・・毎回のワークショップ内容のまとめ役
・委託業者 ・住民で行う・・・ワークショップ内容を住民に周知（毎回広報紙配布）
 - ③ 計画づくりメンバーの決定・・・コミュニティ関係者だけでなく、住民公募等により広く参加していただき、計画策定委員会などを構成します。（7月～8月）
 - ④ ワークショップ（月1回で6回程度開催）9月～2月予定
 - ・ 現状と課題を調べる（ワークショップ1回目、2回目）・・・必要に応じて住民アンケート実施
 - ・ 課題を達成するため・・・目標を決める（ワークショップ3回目、4回目）
- 《すぐ行うもの（5年以内）・時間をかけて（5～10年以内）・長期的（10年以上）に

取組み、実施するもの》

- ・ まとめ（ワークショップ第5回目）：（第4回までのワークショップのまとめ）
- ・ 計画書のまとめ（ワークショップ第6回目）：（今までのワークショップの内容を検討し、必要に応じて追加、修正する）・・・計画書（案）作成

（2）住民アンケート等の実施（次年度）

- ① 計画書（案）を住民に周知しアンケートを実施
- ② 必要に応じて、小学生ワークショップやアンケートを実施してまちづくりについて意見を聞く。

（3）計画書（案）の追加、修正を行う・・・まちづくり計画書（案）の完成

（4）計画書（案）を総会で承認（次次年度）

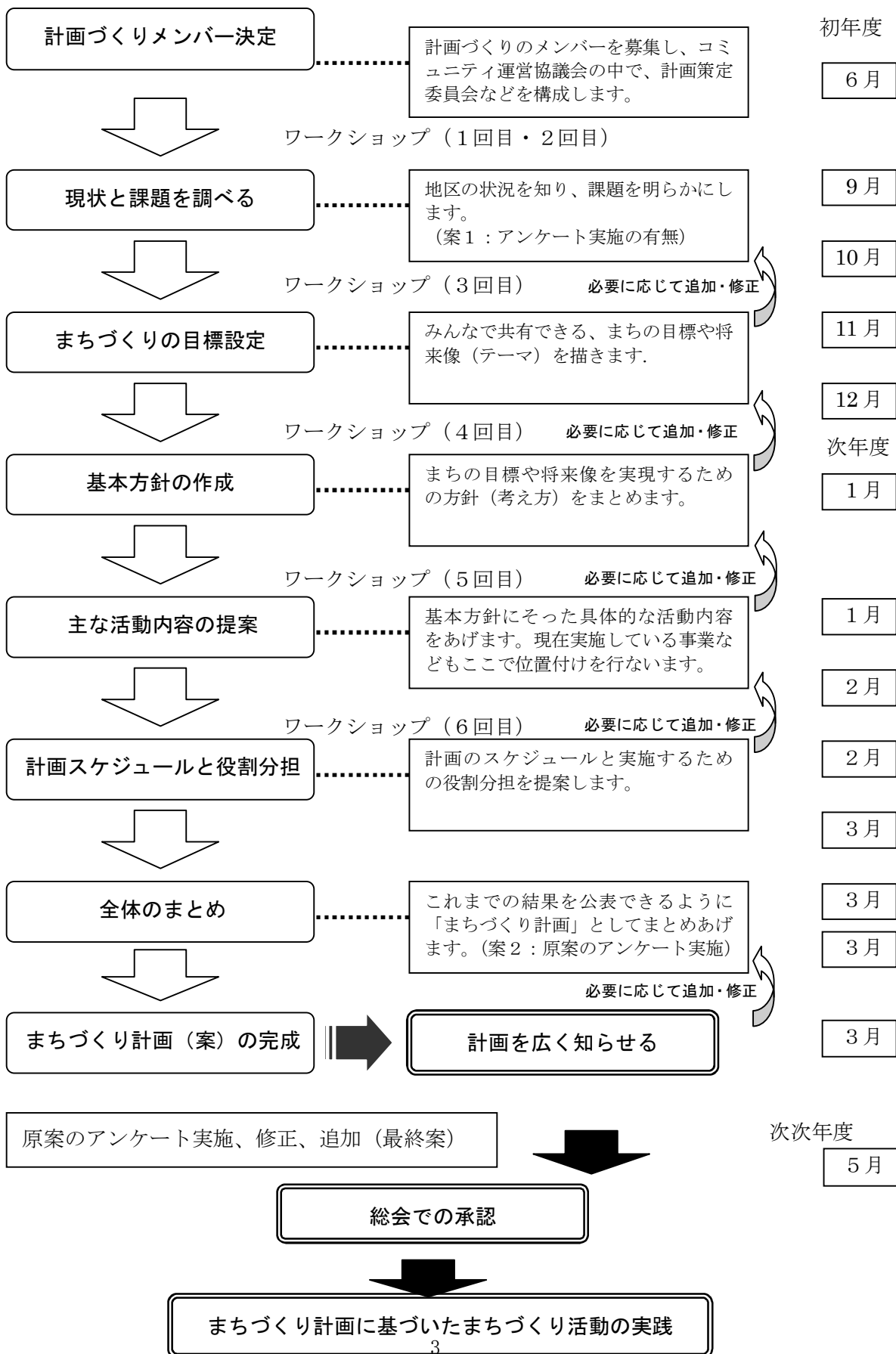
（5）まちづくり計画に基づいた活動計画、活動実施・・・〇〇地区住民のまちづくり計画として認識され、地域住民で実施又は市と協働して行うなど・・・具体的な活動内容を検討し実施。

また、市の総合計画などで地域別計画として反映されます。

※計画づくりの手順

(スケジュール案)

(1) スケジュール



(2) 作業のポイント

①計画策定組織をつくる

まちづくり計画策定にあたっては、コミュニティ運営協議会の中に実際に計画づくりの作業を行なう「計画策定委員会」をつくってはどうか。

策定委員の構成は、協議会の選抜メンバーに加え、地区内の公募で選出したメンバーで構成することがよいのではないのでしょうか。(30～40名程度)

必要に応じて、専門家やコンサルタントによるアドバイスが得られるようにしておくことも必要です。

②現状と課題を調べる

最初に、地区の人口や土地利用などの概要を確認して、一般的にどういうまちなのかを整理します。

次に、まちに対する意識は住民一人ひとり異なりますので、メンバーが意見を出し合い、地区のよいところ・困っているところ、地域の資源などを調べます。

地区の住民要望の集約やコミュニティマップ（地区白書）づくり、地区カルテづくりを行なうことも有効だと考えられます。すでに他の計画づくりでまとめている資料も活用して無駄のないようにしましょう。

まちを探索して「わがまち・魅力マップ」など地図にまとめることも考えられます。

(例)

よいところ：連帯感がつよい。ボランティア活動が盛ん。生活しやすい。など

困っているところ：交通量が多くて危険。道路、歩道が狭い。など

まちの資源：歴史的資源がある。まつりがある。など

③まちづくりの目標をきめる

地区の「現状と課題」を受けて、地区が今後どうなったらよいか話し合い、まちづくりの目標や将来像（テーマ）を決めます。

目標は複数あってもかまいませんが、だれにでもわかりやすく、なじみやすいものがよいと考えられます。

(例)

よいところ：連帯感がつよい。ボランティア活動が盛ん。生活しやすい。など

・・・を受けて「ひとにやさしいまち〇〇」など

困っているところ：交通量が多くて危険。道路、歩道が狭い。など

・・・を受けて「みんなが安心してくらせる〇〇」など

まちの資源：歴史的資源がある。まつりがある。など

・・・を受けて「歴史がいきるまち〇〇」など

④基本方針をまとめる

地区のまちづくりの目標を受けて、その実現のために行うべき内容をわかりやすく簡単にまとめます。

地域福祉のまちづくり、健全な青少年育成、生活しやすい環境整備など、各地区で重要と考えられる項目をまとめます。

(例)

「子どもや高齢者の生活を地域でささえる」、「歴史的街なみを生かしたまちづくりを行う」など

⑤主な活動内容を提案する（事業の位置付け）

基本方針にそって、具体的な活動内容や事業などを考えていきます。すでに実施している事業についても可能なかぎり位置付けや関連付けを行います。

(例)

「子育てや介護を支援するボランティアを育てる」、
「〇〇道路の歩道を整備する」など

⑥計画スケジュールと役割分担をきめる

主な施策には、早くする必要があるものと、長期的に取り組む必要があるものなどがあります。おおむね5年以内（短期的なもの）と5～10年以内（中期的なもの）、10年以上（長期的なもの）に分けます。

また、地区のどの分野の団体が取り組むべきものか、市の協力が必要かどうか、などを検討し、施策によって役割分担を整理します。

⑦全体のまとめ

計画づくりの作業を報告書としてまとめます。だれが見てもわかりやすいように、作業した地図や写真、絵などを入れたりして読みやすくしましょう。

また、報告書に地区の将来を描いたマップなどを入れるなど、地区の特徴をアピールする工夫をしてみましょう。

（例）報告書の構成例

はじめに

1.計画の構成

2.計画

(1)地域の現状と課題 (2)まちづくりの目標 (3)基本方針

(4)主な活動内容（取組み） (5)計画スケジュールと役割分担

あとがき

資料編

(アンケートの結果、意見の概要、会議の記録(ワークショップ)、計画作成メンバー、参考資料の一覧など)

4. つくった計画はどうなるのか

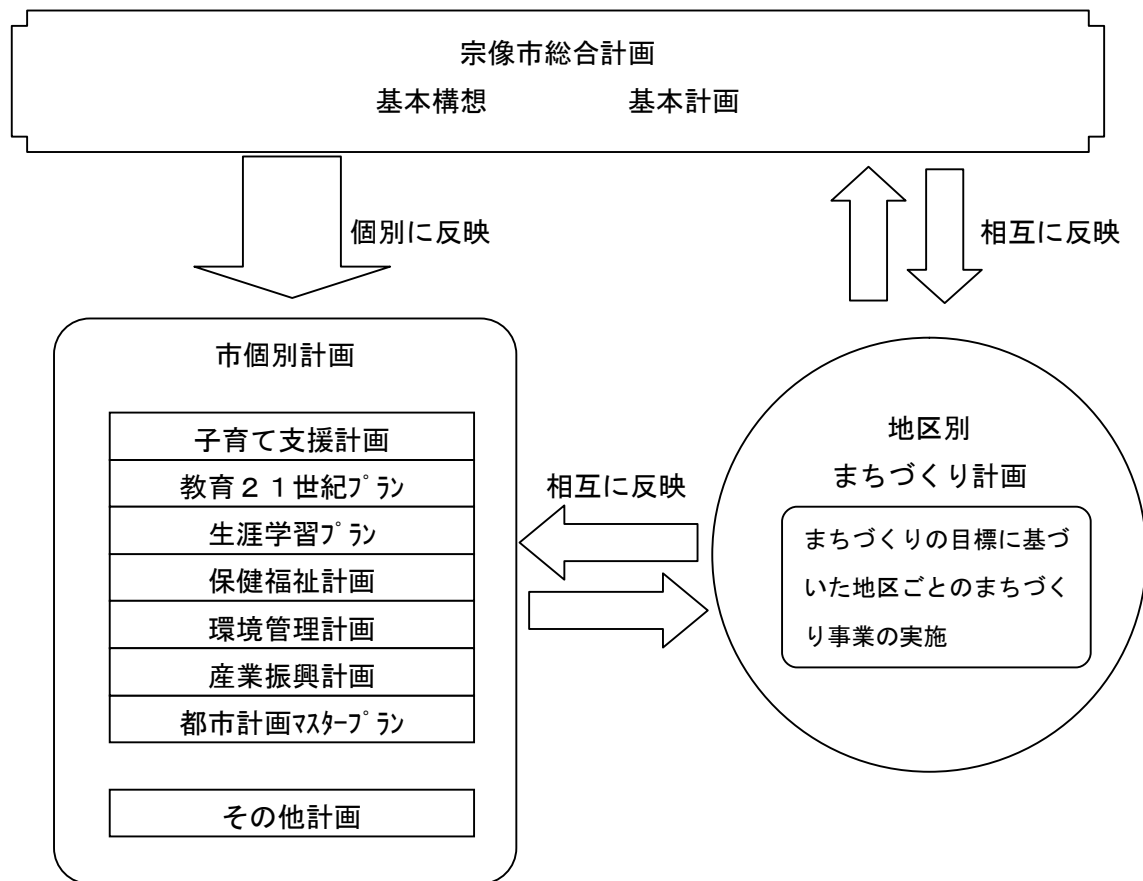
(1) 計画の使われ方

みんなで共有できる吉武地区まちづくり計画として内外に認識されます。

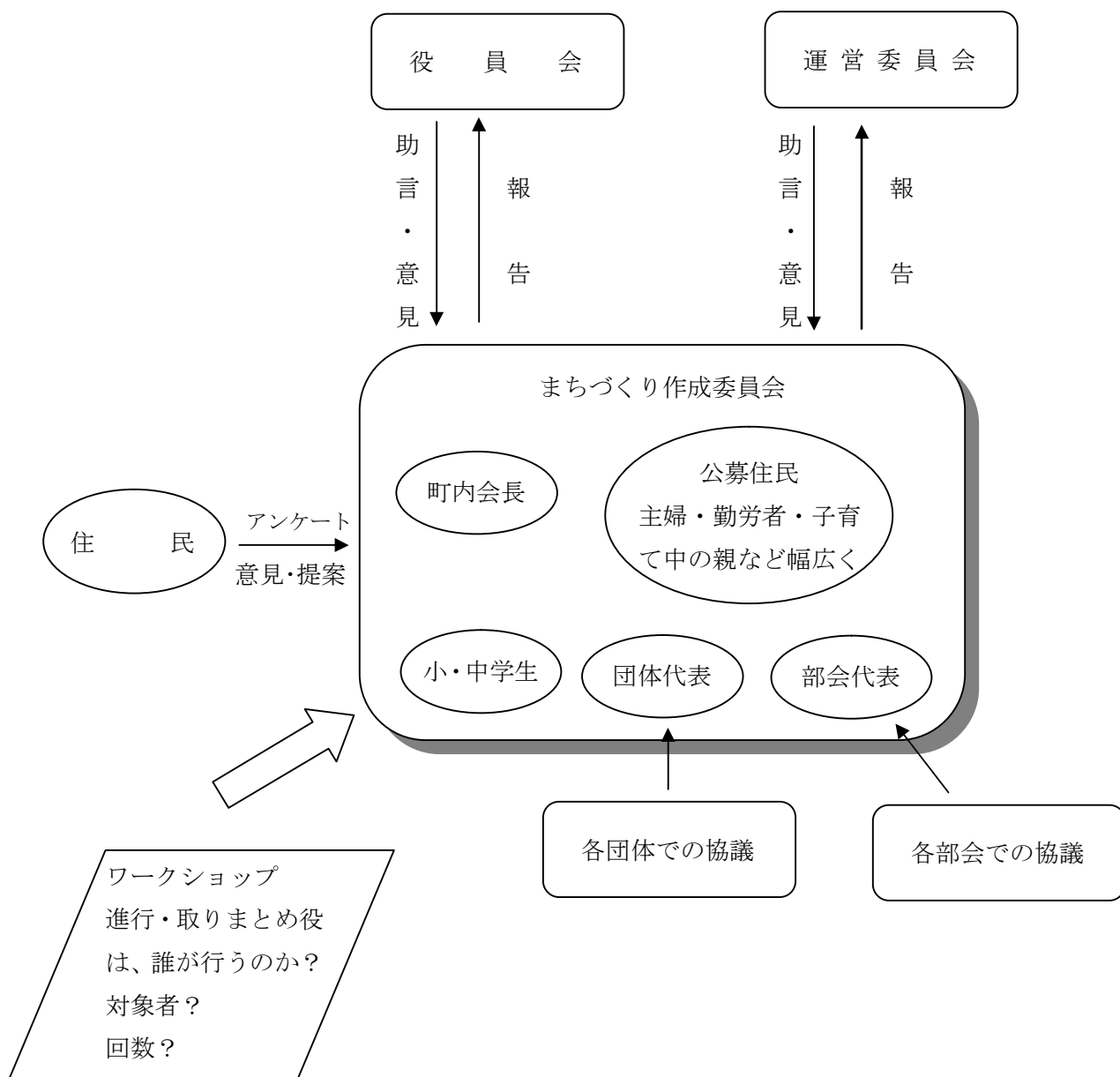
各地区コミュニティで行なわれる事業の基本的な根拠となり、予算や事業計画を作成する際はこの計画が基本となります。

計画の内容は市総合計画や各種事業を行なうための実施計画へ反映され、より住民ニーズに対応した市の施策が実施されるようになります。

(2) 行政計画とまちづくり計画の関係(イメージ図)



まちづくり計画作成体制（案）



- ① 計画策定委員会のメンバー構成について
- ② まちづくり計画は、ワークショップ形式で行なうのか。
- ③ ワークショップの対象者をどうするのか。（協議会から、公募など、人数）
- ④ 進行・取りまとめ役は、誰が行なうのか。（独自で行なうのか、委託するのか）
- ⑤ 住民アンケートは、いつごろ行なうのか。
 1. ワークショップ開催前又は途中行なう。（現状、課題、目標などについて）
 2. 原案策定後に、原案についての住民アンケートを行なう。（原案修正を要す）